

《私たちが目指すまちとは？》

さまざまな人が住むまちの状況を知り、地域の課題を共有する・・・

外国人市民も
まちの担い手となる

多文化共生の
ネットワークづくり

多様な担い手の協働による安全・安心で誰もが
快適に暮らせる多文化共生のまち



共生のまちづくりネットワークよこはま
2003年12月設立

横浜市には現在160近くの国と地域からさまざまな背景と文化を持つ人たちが住んでいます。そしてこの多様性が「国際性豊かな」都市を形づくっています。しかし、その一方で地域住民としての外国人のニーズも多様化し解決すべき課題も多くなってきました。

この課題解決の手段として国際交流団体、行政、学校、企業等のネットワークが求められます。ネットワークを通じて、誰もが住みやすい「共生のまち」を実現することが会の目的です。

設立当初の3年間は、(公財)横浜市国際交流協会(YOKE)と協働事業を展開し、青葉区、緑区、港南区で地域連携調査を実施しました。

さらにさまざまなプロジェクトを実施し、地域で必要とされる活動を探りました。これが、現在の活動の基盤となり今日に至ります。

入会のご案内



会員 趣旨に賛同する個人や団体

・正会員

個人会員/年1,000円

団体会員/年3,000円

・賛助会員

個人会員/年101万円

団体会員/年101万円



定例会(企画運営委員会)

毎月第4月曜日 18:30-20:30

かながわ県民センター12階

(横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2)

詳しくはコチラ

<http://kyomachi-y.sakura.ne.jp/wp>

<https://www.facebook.com/kyomachi.yokohama/>



連絡先



e-mail:office@kyomachi-yokohama.org

tel:080-5647-3100(小池)



共生のまちづくり ネットワークよこはま



多文化共生のまちづくり

さまざまな調査やヒアリング

- 18 区役所外国人市民サービス実態調査 (2010 年)
- 18 区役所 HP 多言語情報提供実態調査 (2011 年)
区役所や地域団体へのヒアリング
- 18 区役所 HP 外国人施策情報調査 (2014 年)
- 18 区役所 HP 災害情報関連調査 (2014 年)



学習会 公開講座

- 「入国管理法が変わると・・・」(2009 年)
- 「多文化共生社会～平塚の場合～」(2011 年)
- 「7月9日 入管法が変わります」(2012 年)
- 白水繁彦さんに聞く「イノベーション社会学から見たハワイのウチナンチュ」(2013 年)
- 「多文化共生 NOW in かながわ ～現状と課題・そして、これから～」(2014 年)
- 情報力をつける「Facebook の有効活用」(2014 年)
- 外国につながる子どもたち(2015 年)
現状と課題～
る -とは?」(2016 年)
アーセッションツールとして



政策提案

横浜市において総合的な外国人支援施策をすすめるためには情報の一元化や広報戦略を立てることが必要と「横浜市中期4か年計画 2010-2013」へ政策提案を行いました。またその内容は、中期計画改定では多文化共生社会の推進項目で取り上げられました。

提案内容

- 1) 総合的な外国人施策とその可視化
- 2) 外国人支援策の情報共有化
- 3) 外国人支援情報の一元管理とそれを支える仕組み作り

<http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/seisaku/newplan/h22/pdf/teian/teian.pdf> (45 ページ掲載)



活動の足跡

- よこはま国際フェスタへ参加 (2009 年)
「音で伝える災害情報 外国人はどうするの?」
- シンポジウムを開催 (2010 年)
「グローバル化する大都市横浜と外国人市民への行政サービス」
- よこはま国際フォーラムへ参加 (2011 年～)
報告会を開催
「横浜の外国人市民サービス実態調査 No.1・No.2」
「外国人市民への情報提供を考える
～18 区役所ホームページの現状から～」
「災害時では間に合わない 外国人への情報提供」
「すぐろくで考える多文化防災」

現場を訪ねる研修

横浜市の外国人登録者数は、2016 年 9 月末現在 85,000 人を超えました。外国人市民が暮らしやすいまちづくりのために、行政、市民団体、地域に住む人々がどのように協力、協働しあえばよいか、活動団体の現場を訪ね、外国人市民が抱える課題を共に考える研修を行っています。

<これまでの訪問・研修先>

川崎市ふれあい館、いちょう小学校、神奈川朝鮮学園、NPO 法人在日外国人生活相談センター、たぶんかフリースクールよこはま、アクアレラ・ブラジル人学校、末吉町教会、潮田中学校、信愛塾、横浜モスク、港町診療所、他



多言語版 おくすり手帳

言葉の壁や文化習慣の違いから、医療や防災に不安を持ちながら生活している外国人が多くいます。

この課題を解決するために、やさしい日本語/英語/中国語/韓国朝鮮語の4言語に対応している多言語版おくすり手帳を作成しました。

外国人が薬局等で気軽に手帳を入手することができるよう普及活動を進めています。

また、スペイン語やベトナム語等のニーズも多く、このような言語版も作成します。

この事業は大川印刷株式会社との協働として進め、NPO と企業とで一緒に多文化共生の社会をめざします。

